

■北海道農業・農村の振興について

今、世界経済は百年に一度とも言われる危機的な状況に直面しており、我が国の経済も、そして本道の地域経済も大変な状況にあります。

こうした状況の中で、道政の最緊急課題は、道民の暮らしと雇用をいかに守っていくのかということであることは論を待ちません。

その一方で、食料や環境問題に対する人々の関心は着実に高まっており、本道の基幹産業である農業を今後どのように振興していくかが、従前にも増して道政の重要課題となっていると私は思っています。

本道農業は、明治の開拓以来、先人の方々のたゆまない努力によって、積雪寒冷といった厳しい自然条件を克服し、地域の基幹産業として、また、我が国最大の食料供給地域として発展し、今日がある訳であります。

しかしながら、時代の流れとともに、この本道農業・農村を取り巻く環境にも大きく変化しております。

細越部長が日高支庁長から農政部参事監そして農政部長を歴任されてからも、ミートホープ社による食肉偽装事件など食の安全・安心に関わる問題をはじめ、WTOなどの国際農業交渉の活発化、配合飼料、肥料、燃油といった農業生産資材の価格高騰問題、さらには国の新たな食料・農業・農村基本計画への対応など、まさに本道農業・農村のこれからの大きな影響を及ぼす問題が次々と持ち上がっています。

こうした難局に直面する中で、細越部長におかれては、その課題解決に向けて、何よりも生産現場の声を聞きながら地域の実情に即した対応をされるなど、常に現場を大切にされ、誠心誠意、努力されて、農政の責任者として責務を果たされたと承知しております。

聞き及ぶところによりますと、細越部長は、今月末をもって道庁を退職される予定であると伺っております。この機会に長年、農政に携わってこられました経験や見識を踏まえ、本道農業・農村が将来にわたって持続的に発展するためには、今後、何をすべきなのか、その振興に向けた見解を、是非、細越部長にお示しを（いただきたくお聞かせ願います。）願いたく質問とさせていただきます。

答弁者 農政部 細越 良一 部長

ただいま、村田委員から心温まるご配慮をいただき、発言の機会を頂きました。大谷委員長、三井副委員長をはじめ、農政委員の皆さまに心から感謝申し上げます。

また、この1年間、WTO農業交渉や肥料・燃油などの資材価格の高騰、そして、国の新たな食料・農業・農村基本計画の見直しなど多くの農政課題を抱える中で、私なりに微力ながら農政部長の職務を務めることができましたことは、大谷委員長、三井副委員長をはじめ委員の皆さまのご協力とご指導があつてこそと考えており、深く感謝申し上げます。

村田委員のお話にもありましたとおり、本道農業は、明治の開拓以来、多くの先人の不撓不屈の精神と努力により、厳しい自然条件を克服し、1兆円の生産高を産出し続ける基幹産業に成長しました。

これを僅か百年余りの期間で成し遂げたことは、世界的に見ても例がないと言っても過言ではありません。

私たち農政に携わる者としては、こうした歴史を重く受け止め、これまで培われてきた本道農業・農村の役割や価値を道民の貴重な財産として育み・守り、そして、しっかりと次の世代に引き継いでいくことが責務であると考えています。

さらに、近年、地球温暖化の進行が懸念される中で、干ばつや豪雨など世界的な異常気象の頻発や、砂漠化による農地の減少など農業生産の不安定性が増しており、本道の農業・農村が、我が国の食料の安定供給に果たす役割・期待が一層高まってきております。

このため、私は、ほ場の排水改良や灌漑施設整備などの生産基盤の整備や、これからの農業を担う人材の育成・確保、新品種や栽培技術の開発といった技術力の一層の向上によって、本道の食料供給力の維持・向上を図り、国民の食生活、そして我が国の経済に貢献していくことが、本道農業の持続的な発展につながっていくものと考えています。

国は、現在、新たな「食料・農業・農村基本計画」の見直しに着手しておりますが、資源、人材、そして自然環境に恵まれ、大きく発展する可能性を持つ本道農業・農村が、今後とも我が国の食料の安定供給に最大限貢献していくために必要な施策が、この基本計画の中に明確に位置づけられるよう国に対して積極的に政策提言を行っていかねばならないと考えております。

今、世界経済は、百年に一度と言われる混迷の中にあり、本道の地域経済も大変厳しい苦境の中にありますが、私は、北海道を元気にするためには、食品加工や観光など幅広い産業と結びつきが強い農業が元気でなければならないと考えており、まさに、北海道農業の真価が問われる時代がやってきたと考えています。

このような時こそ、農政部職員の知恵と行動力を結集して、農業を盛り上げるため、そして、地域で頑張っている担い手が、将来に夢と希望を持って営農ができるよう、これまで以上に現場に出向き、地域の声をしっかりと聞きし、状況をきちんと捉え、現場の実情に即した対応を進めながら、本道農業・農村の振興に取り組むことが大切であると考えておりますので、大谷委員長、三井副委員長をはじめ、農政委員の皆さまには、今後とも農政部に対して、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私は、昭和48年に空知支庁に配属されて以来、主に農政を中心に、本庁そして支庁で道政に携わってまいりました。

この間、職場の仲間や関係機関・団体の方々、そして、生産者の皆さんをはじめ地域の方々から多くのことを学ばせて頂き、共に汗をかきながら地域農業の振興、ひいては本道農業・農村の振興に努力できたことは、私自身の大きな喜びとしているところであります。

そして、開拓以来、多くの困難を乗り越えてきた本道農業が、今後とも北海道の発展を支える産業として、さらに魅力あるものとなり、人々の豊かな暮らしを育むかけがえのない道民の財産として一層輝きを増していくことを願って止みません。

最後になりますが、大谷委員長、三井副委員長をはじめ委員の皆様これまでの御厚情に、心から感謝申し上げますとともに、このような機会をいただいた委員の皆さまのご配慮に重ねてお礼を申し上げ、退任の挨拶として最後の答弁とさせていただきます。

大変お世話になりました。ありがとうございます。